

タイトル：『汐製菓会社の新作の
キャラメル』

シーン：新作会議室

（汐製菓会社の会議室。明るく活気のある
オフィス。テーブルの上には山のような資料と
サンプルが散らばっている。）

汐

（元気に）「さあ、みんな！今日も面白いアイ
デアが浮かんだよ！今回は、世界中を驚かせ
る新商品だ！」

塩田

（冷静にメモを取りながら）「社長、次の商品
はどんなものになるんですか？」

汐

（目をキラキラさせて）「キャラメルだよ！でも

ただのキャラメルじゃない……なんと、『ハンバ
ーグ味』キャラメルだ！」

塩田

（驚き、思わずペンを落とす）「は、ハンバーグ
味のキャラメル！？社長、それってお菓子とし
て成立するんですか？」

汐

（自信満々に）「もちろんさ！想像してごら
ん、甘くてジューシーなキャラメルに、肉汁あ
ふれるハンバーグの風味が広がるんだ。これは
間違いなくヒットする！」

塩田

（戸惑いながら）「ハンバーグは好きですけど
…それをキャラメルにするのは、ちよつと…大
胆すぎませんか？」

汐

（陽気に）「大胆だからこそ面白いんだよ！さ
あ、試作を作ってみよう！」

シーン2：試作室

（汐と塩田、製菓開発担当者たちが試作室に集まっている。大きなボウルにキャラメルのベースがあり、その横にはハンバーグソースの材料が置かれている。）

汐

（わくわくしながら）「よし、キャラメルベースにハンバーグソースを混ぜてみよう！新しい味覚の革命だ！」

塩田

（不安そうに）「革命って、良い意味での革命ですよね？」

（開発担当者が慎重にキャラメルベースにハンバーグソースを加え、練り合わせる。室内には甘くて肉っぽい匂いが漂い始める。）

開発担当者」

（鼻をつまみながら）「匂いが……すごいです、社長。」

汐

（にっこり笑って）「これが、未来のスイーツの香りだよ！」

塩田

（半笑いで）「私たちの会社、終わったかもしれませんが……」

シーン③：試食会

（汐製菓の社員たちが試作キャラメルを手にとっている。目の前には、黒っぽいキャラメルが皿に並べられている。）

汐

（誇らしげに）「さあ、みんな！このハンバーグ

キャラメルを食べてみてくれ！感想を聞かせてほしい！」

塩田

（恐る恐るキャラメルを手に取りながら）「…これ、食べ物なんですよね？」

（社員たちが一斉にキャラメルを口に入れる。表情が一瞬で固まり、その後、全員が思わず顔をしかめる。）

社員 A

（咳き込みながら）「あの、社長…これは…」

社員 B

（顔を真っ赤にして）「まさか、これがスイーツだなんて…」

塩田

（震えながら）「この味、どう説明したらいいんでしょう…口の中で甘さと肉汁が…」

汐

(キラキラした目で)「どうだ？新しい感覚だろー!？」

社員○

(正直に)「確かに、食べたことのない味です…でも…」

社員△

(涙目で)「…二度と食べたくないです!」

塩田

(冷や汗をかきながら)「社長…これは…ちょっと難しいですね。」

汐

(眉をひそめて)「そんなことない!きっと、世界中の人たちなら、この美味しさが分かってくれるはずだ!」

シーン△:国内テストマーケティング

(日本国内でのマーケティングイベント。ショッ
ピングモールで、新商品の試食会を開催して
いる。目の前には長蛇の列ができている。)

塩田

(イベントスタッフに)「今日の試食会、思った
よりも人が集まりましたね…」

イベントスタッフ

「そうですね!『ハンバーグ味キャラメル』とい
うキャッチフレーズに皆さん興味を持っている
ようです!」

汐

(上機嫌で)「これだよ、これ!おもしろき
とも無き世を面白く、だ!」

塩田

(苦笑いしながら)「味に関してはどうなるこ
とやら…」

（お客さんが次々とキャラメルを試食していき。最初は興味津々だが、次第に顔が曇り始める。）

お客さん 1

「うっ…これは…肉…？いや、キャラメルの甘さが…」

お客さん 2

「斬新な味ですね…でも、もう少し普通の方が…」

お客さん 3

（子供に渡しながら）「食べてみなさい。美味しいかもよ？」

子供

（口に入れた瞬間、顔をしかめて）「お肉と甘いのが混ぜてる！変な味！」

汐

（楽しそうに）「どうだい？この驚きの顔！これが大成功の兆しだ！」

塩田

（ため息をつきながら）「…やっぱり難しいですね、社長。次のテストはどうしましょう？」

シーン⑤：国際展開へ

（場面は変わり、国際展示会のブース。世界中から集まったバイヤーたちが集まっている。）

汐

（自信満々に）「さあ、いよいよ世界進出だ！これを待ち望んでいたんだよ！」

塩田

（心配そうに）「海外の方々も、受け入れてくれるでしょうか…」

(バイヤーたちが興味を持って近づき、試食を始める。英語、フランス語、スペイン語など、様々な国の言葉が日本語で表記される。)

バイヤーニ(アメリカ人)

「これは何？キャラメルに…ハンバーガーの味？すごく変わってる！」

バイヤーニ(フランス人)

「信じられない！どうやって作るんだ？お肉とキャラメルの味？」

バイヤーニ(スペイン人)

「これは奇妙だ…でも、面白い。もしかしたら違う市場でうまくいくかも。」

塩田

(通訳に)「今、なんて言っていました？」

通訳

「『これは変わっている…しかし面白い』という感じです。」

汐

(満足げに)「だろう？これがウケるってことさー！」

バイヤーニ(アメリカ人)

「でも…アメリカではあまり売れないかもしれない。ユニークすぎる。」

バイヤーニ(フランス人)

「そうね、ちょっと特別すぎるかも。」

バイヤーニ(スペイン人)

「たぶん、主流の市場には奇抜すぎる。」

塩田

(ため息をつきながら)「やっぱり厳しいですね…」

汐

(めげずに)「そんなことないさ！一歩ずつ進んでいけば、いつか世界は俺たちのキャラメルを認めるはずだ！」

シーンの…新たな挑戦

(会社に戻り、再び試作に取り組む汐と塩田。)

汐

(前向きに)「まあ、少し時間がかかるかもしれないけど、いい手ごたえはあったな！」

塩田

(疲れた表情で)「本当ですか…私はまだ少し現実的な商品を考えてほうがいいと思います
すが…」

汐

(軽く笑って)「現実なんてつまらない！次のステージに進もうじゃないか！どうだ、次は『たこ焼き味キャラメル』なんてどう？」

塩田

（目を見開いて）「…社長、もうやめてください。」

汐

（笑いながら）「楽しみだな！」

エンディング

（汐と塩田が次なる商品開発に向けて動き出す。）

ナレーション

「こうして、汐製菓の挑戦は続く。奇想天外なお菓子の未来を作るために、彼らはまた次の一步を踏み出すのだ。」

終